

風信

地元の都立高校に入学したのが1969年。この年でした。サッカー・麻雀・ビリヤード・映画にギターとまさに青春を謳歌する日々……。

一方この時代、ヴェトナム戦争に反対する若者達のプロテストは世界中で吹き荒れていました。そんななか、私も若い仲間たちとこの大きな流れとともに熱い熱い高校生時代を過ごすことになりました。

1955年から1975年まで続いたこの戦争は、分断された南・北ヴェトナムの統一をめぐる展開されました。冷



戦下で東西代理戦争とも言われましたが、1973年にアメリカの直接関与が

終焉を迎え、ラオス・カンボジアの内戦を経て、1975年に第二次インドシナ戦争は終結します。

その後も世界ではいくつもの内戦・戦争や人権弾圧が繰り返されて来ました。

それでも世界は螺旋的にはあれ、良い方向に向かっていくと根拠のない思いを胸に過ごしてきました。人類は遅々とした歩みではあれ、「調和と持続」を前

調和と持続

寺川 光男

提に歩いて行く筈だという思いです。

しかし、残念ながらその思いは浅はかだったと言わざるをえません。温暖化に象徴される地球規模的環境破壊・人権侵害や言論弾圧、そしてロシアのウクライナ侵攻……。

高校生の時に見た世界と半世紀後の今日見ている世界。良い方向に向かうどころか、今や待ったなしの危い状況が世界

を覆っている様に思います。危機は加速度化していると言えざるを得ないでしょう。

そんななか、5月13日に発せられた「第61回全出版人大会・大会声明」は心から共感する宣言でした。大会委員長の千葉均氏（ポプラ社代表取締役）が発せられたその声明は、「競争と成長」よりも「調和と持続」が上位にくる価値観のアップデートの必要性を訴えています。そして、出版業界を含めたエコシステムを確立し、人類全体の持続可能性を高める事が出版業界の大切な役割だとしています。

声明は「出版活動を通して、人々がコンテンツと出会うあらゆる機会や環境を守り、世界中の人々にその感性の種を届け続け、地球規模の問題を解決し、私たち人類の希望の光となることを確信しています」と結んでいます。

この様な大会声明を発する出版業界の一員として仕事をさせて頂いていることに、喜びと誇りをもちながら歩みたいと思っている次第です。

（光和コンピューター代表取締役）